

千代田区

防災案内板に広告

約9割のコスト削減見込む

千代田区は、区内に新設する「総合防災案内板」と「広報板」の計四百三十七基の制作・維持管理費用を軽減するため、それぞれに広告を募ることを決めた。広告料収入で、二十年間の維持管理費用も含め、コストを約九割削減することを見込んでいる。制作や広告主集め、維持管理は、NPO法人と協定を締結し、経費だけでなく人手の削減も狙っている。

維持管理NPOと提携

同区では、災害時の避難更新する必要がある「住居場所の表記変更」に伴い、既存の「避難誘導案内板」を「表示案内板」も近くに設置



千代田区で導入される「総合防災案内板」のイメージ図

されていることも多く、非効率なことから、機能を一体化させた「総合防災案内板」を作ることにした。

一方、昨年七月に都の屋外広告物条例が改正され、それまで広告が認められていなかった「避難標識」と「案内図板」への広告が可能になったことから、コストを削減して案内板の数を増やすため、広告を募ることになった。

区の試算によると、従来の手法で区が制作や維持管理にあたった場合、二十年

間で約6億1300万円かかるが、今回の方法では、

区がNPO法人の共同事業者として負担する5600万円（年280万円）の支出で済むという。案内板の数も、既存の二種類の計百三十基から、百九十一基に増やす。区は、広告内容についてNPOと協議しながら、来年三月までに案内板の整備を完了させる。

平成16年4月1日
読売新聞都民版掲載記事